研究情報

誕生!モザイクウイルスに強い 納豆用極小粒大豆品種「すずかおり」

平成16年9月30日に納豆用極小粒大 豆品種「すずかおり」(だいず農林127 号) が誕生しました。この機会に新品

種「すずかおり」を紹介します。

《ダイズモザイクウイルスに強い納豆用大豆の開発》

大豆を原料とした発酵食品である納豆は、健康に良いとされ る成分に富んだ食品です。近年の研究から、納豆は血圧降下作 用や血栓を溶かす効果など様々な機能性を有することが明らか

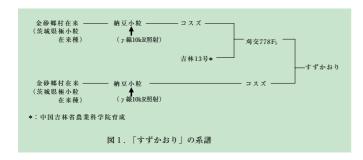


写真 1:「すずかおり」の草姿

になり、健康食品として広く認 知されています。そうしたこと から、納豆の消費量は増加傾向 にあり, 国産の納豆用小粒大豆 の需要も堅調です。

東北農研センターでは,こ れまでに納豆用大豆品種とし て「コスズ」と「鈴の音」を 育成しました。しかし、これ らの品種はダイズモザイクウ イルスのAおよびB系統には 強いのですが、CおよびD系 統には弱いために、栽培地域

は主に東北北部から中部の地域に限られていました。そこで 当研究室では、ダイズモザイクウイルスのA~D系統に強い 納豆用小粒大豆品種の育成に着手し、十数年の時を経てダイ ズモザイクウイルスに強い「すずかおり」を育成しました。



《大豆の病気:モザイク病》

東北地域での大豆栽培において問題になる病害のひとつに ダイズモザイクウイルスによって発生するモザイク病があり ます。このウイルスにはA~E系統の5つの種類があり、東 北北部から中部の地域では主にAおよびB系統が発生し、東 北南部地域ではA、B系統に加えて、CおよびD系統も発生 しています。大豆がダイズモザイクウイルスに罹ってしまう

水田利用部 大豆育種研究室

高田吉丈

TAKADA, Yoshitake



と、収量の減少や収穫した種子の表面に褐色の斑紋が生じて 品質低下の原因になります。

《病気に強い性質は中国の品種から》

図1に示した「すずかおり」の系譜の中に「吉林13号」と いう中国で育成された品種があります。この品種のダイズモ ザイクウイルスに対する抵抗性を調査したところ、Cおよび D系統に強いことが明らかになりました。また、「吉林13号」 は小粒なため、ダイズモザイクウイルスに強い納豆用大豆品 種育成を目標にした交配の親として利用されました。「すず かおり」のダイズモザイクウイルスに強い性質は「吉林13号」 から受け継いだものです。

《栽培しやすい「すずかおり」》

「すずかおり」にはダイズモザイクウイルスに強い性質の他 に、倒伏に強い(倒れにくい)という特徴があります。このた め、倒れ易い「コスズ」に比べて栽培しやすくなっています。

《納豆が柔らかな「すずかおり」》

いろいろな条件で栽培した「すずかおり」を用いて納豆を 試作しましたが、総じて納豆は柔らかでした。また、官能評 価でも良好な結果が得られています。したがって,「すずか おり」は納豆加工適性が優れた品種といえます。

《おわりに》

「すずかおり」は山形県の認定品種に採用されており、数

年後には一般栽培が 見込まれています。 「すずかおり」が国 産大豆の需要拡大や 地場産業の活性化等 に貢献することを期 待しています。





すずかおり 写真2:「すずかおり」の納豆